

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006 ～ 2009
課題番号：18520267
研究課題名（和文） 越境するロシア演劇—演劇の近代化とロシア型演劇システムの伝播
研究課題名（英文） Russian Theatre and it' s Crossbordering action in the Process of Modernization of Theatre
研究代表者
楯岡 求美（TATEOKA KUMI）
神戸大学・大学院国際文化学研究科・准教授
研究者番号：60324894

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：メイエルホリド、ハリウッド、ユダヤ、アレイヘム、スタニスラフスキー・システム、ロシア、演出、亡命

1. 研究計画の概要

ロシア演劇を近代的演劇の土台として明確に位置付け、近・現代演劇の現在までの展開を再考することを目的としている。

2. 研究の進捗状況

本研究は、従来はエピソード的に扱われてきたロシア演劇を近代的演劇の土台として明確に位置付け、近・現代演劇の現在までの展開を再考することを目的としている。演出手法および演技法の伝播の媒介者としてのロシア亡命者に注目し、また、モダニズム以来の芸術ジャンルの混交が演劇の表現にどのような影響を与えたのかも考察している。これまでに「20 世紀初頭のロシア演劇において、演出、演技法がどのようにシステム化されたか」という問題については 20 世紀初頭に芸術ジャンルの混交を特徴とするロシア・モダニズム期に、アヴァンギャルド的演劇の手法を発想するきっかけとなったイギリスの演出家ゴードン・クレーグおよびドイツの演出家ラインハルトの研究を概観し、それらがメイエルホリドの演出手法の根本に強い影響を与えていたことを改めて検証した。また、また、モダニズム以来、総合芸術として文学・美術・音楽といった他の芸術への広がりをもせた演劇の規範を再考するために、バレエ・リュスや工業化とともに発展したプロダクト・デザイン、アヴァンギャルド・デザインなどの演劇を取り巻く文化状況について概観した。これらロシアにおける成果をスタニスラフスキーの俳優・演出術とともに逆に欧米に伝播したピトエフ、コミッサルジェフ

スキーら亡命者の活動についても概観した。亡命者の問題とあわせて比較的切り離して考えられがちなユダヤ系の芸術家たちの活動についても、ロシアにおける役割と欧米、とくにブロードウェイやハリウッドにおける表現を通して、世界的な規範の中にユダヤの伝統的表現がひそかに持ち込まれていることなどもふまえて、このようなロシア・ソ連からアメリカ・ハリウッドへの伝播は俳優術のユニヴァーサル化とも連動し、ミハイル・チェーホフらによって国外へと伝承されたスタニスラフスキー・システムが、現在の演技術の規範となっていることを検証した。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

当初の予定よりは少し異なっているが、最終年度においてほぼ当初の計画は達成できる見込みである。計画では個別の演劇人ごとに取り扱い、最終的に比較検討する予定だったが、やはり交流を中心として考えているということ、資料の入手については暫時進めていかざるを得ないことなどから、部分的な比較を優先した。結果、個別単独の活動評価はまだ網羅できていないが、概要の見取り図はできたように思う。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度に当たり、これまでの研究成果を「俳優術の教育システムの形成過程」と「演出家主導の舞台構成」の二つの側面から総合的に分析し、報告書としてまとめる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕(計 2 件)

①沼野充義編著、楯岡求美他著『芸術はなにを越えていくのか?』東信堂、2009 年、119-129 頁、172-196 頁。

②井上優編著、楯岡求美他著『演劇の近代(2)』日本学術振興会人社プロジェクトV-1「越境と多文化」研究グループ刊、2009 年、全 86 頁。